

2026年1月21日

2026年1～3月期 静岡県内主要産業四半期見通し調査

主力の自動車部品が振るわず、産業景気はやや後退

静岡経済研究所（理事長 馬瀬和人）では、昨年12月に実施した「静岡県内主要産業四半期見通し調査」の結果をとりまとめましたので、その内容をお知らせします。

現況

- 県内産業の現況（2025年10～12月期）は、『好調』が「情報サービス」の1業種、『普通』が「製紙」「食品・飲料」「工作機械」「民生用電器部品」「二輪車部品」「建設」「大型小売店」「自動車販売」「物流」「人材派遣」「観光・レジャー」「外食」の12業種、『低調』が「自動車部品」「住宅」の2業種となった。
- 『順調』と『不調』の業種はなかった。

今後の見通し

- 2026年1～3月期の見通しについては、引き続き『順調』と『不調』の業種はなく、『好調』が1業種、『普通』が12業種、『低調』が2業種となる見通し。
- 製造業は、海外メーカーとの競争激化や、部品調達の停滞などを背景に、外需型製造業の売上が伸び悩む懸念が高まっている。非製造業は、単価上昇で大型小売店や外食などの売上が押し上げられるものの、日中対立の先鋭化に伴う観光などへの悪影響が危惧され、全体として停滞感が漂う。
- 本調査と同時に実施したアンケート調査で、今冬のボーナス支給について質問したところ、前年より「増加」させると回答した企業が6割を超えた。「前年並み」と合わせて9割近い企業が、前年水準以上のボーナスを支給している。

業種	業界天気 現況 (10-12月)	見通し (1-3月)
製紙	 → 	
食品・飲料	 → 	
工作機械	 → 	
民生用電器部品	 → 	
自動車部品	 → 	
二輪車部品	 → 	
建設	 → 	
住宅	 → 	
大型小売店	 → 	
自動車販売	 → 	
物流	 → 	
情報サービス	 → 	
人材派遣	 → 	
観光・レジャー	 → 	
外食	 → 	

※本件のお問合せ先 田原

〈2月の記者発表予告〉下記の調査について記者発表を予定しています

「静岡県版 景気ウォッチャー調査（2026年1月）」

主力の自動車部品が振るわず、産業景気はやや後退

業界景気の現況（2025年10～12月期）

県内産業の現況（2025年10～12月期）は、『好調』が「情報サービス」の1業種、『普通』が「製紙」「食品・飲料」「工作機械」「民生用電器部品」「二輪車部品」「建設」「大型小売店」「自動車販売」「物流」「人材派遣」「観光・レジャー」「外食」の12業種、『低調』が「自動車部品」「住宅」の2業種、『順調』と『不調』の業種はなかった。

業界景気の見通し（2026年1～3月期）

1～3月期の見通しについては、引き続き『好調』が1業種、『普通』が12業種、『低調』が2業種となる見通し。製造業は、海外メーカーとの競争激化や、部品調達の停滞などを背景に、外需型製造業の売上が伸び悩む懸念が高まっている。非製造業は、単価上昇で大型小売店や外食などの売上が押し上げられるものの、日中対立の先鋭化に伴う観光などへの悪影響が危惧され、全体として停滞感が漂う。

業種ごとにみると、「自動車部品」は、トランプ関税や、半導体不足に伴う完成車メーカーによる生産調整の影響で、部品メーカーの受注量が下押しされ、『低調』のまま推移する。メインの自動車向け需要が低調な「工作機械」、高水準だった前年ほどの受注量は見込めない「民生用電器部品」、主力の欧州市場でメーカー間競争が激化する「二輪車部品」は『普通』のまま推移する見通し。内需型製造業は、家庭用ツナ缶の需要が底堅く、前年並みの売上が見込まれる「食品・飲料」、需要は底堅いものの、輸入品の流入で生産下振れリスクが高まる「製紙」も『普通』のまま推移する。

非製造業では、システム更改を中心に需要の旺盛な「情報サービス」が『好調』を維持する見通し。インフラ改修は堅調だが、民間需要に陰りがみられる「建設」、飲食料品の単価上昇が販売額を押し上げる「大型小売店」、買替え需要が一巡し、比較的高水準だった前年をやや割り込みそうな「自動車販売」、飲食料品は堅調だが、輸送用機器や紙・パルプの荷動きが伸び悩む「物流」、ボリュームゾーンである事務職の派遣が堅調な「人材派遣」、日中関係の悪化でインバウンドの落ち込みが懸念される「観光・レジャー」、値上げの浸透に伴う売上増が見込まれる「外食」は、引き続き『普通』の見通し。「住宅」については、前年の建築基準法改正前の駆け込み需要の反動減に加え、住宅ローン金利上昇圧力の強まりもマイナスに作用し『低調』のまま推移する見込み。

2026年1～3月期 静岡県内主要産業四半期見通し調査一覧表

業種	業界天気		売上高 (前年同期比伸び率)	主要産業の見通し
	現況 (10-12月)	見通し (1-3月)		
製紙		→ 	➔	輸入トイレ紙の流入加速によって、生産下振れリスクが高まる
食品・飲料		→ 	➡	家庭用ツナ缶が堅調で、食料缶メーカーの売上は前年並み
工作機械		→ 	➔	内外需で明暗が分かれ、中小メーカーは苦戦が続く
民生用電器部品		→ 	➡	底堅い需要が見込まれるものの、好調だった前年には届かず
自動車部品		→ 	➡	需要回復鈍く、生産調整が部品受注を下押し
二輪車部品		→ 	➡	主力の欧州市場で競争が激化し、受注は弱含む見通し
建設		→ 	➡	インフラ改修は堅調な一方、民間需要は前年を下回る
住宅		→ 	➡	前年の反動減に加え、住宅価格・金利の上昇が響き低調に推移
大型小売店		→ 	➔	総販売額は前年をやや上回るものの、収益環境は悪化
自動車販売		→ 	➡	買替え需要が一巡、新車投入も少なく前年をやや下回る
物流		→ 	➡	輸送用機器や紙・パルプが伸び悩み、輸送量全体は前年並み
情報サービス		→ 	➔	システム更改需要を中心に、好調な受注環境が継続
人材派遣		→ 	➡	観光は弱含むも、主力の事務関連を中心に底堅く推移
観光・レジャー		→ 	➡	日本人観光客の鈍化に加え、中国人観光客の伸び悩みも懸念
外食		→ 	➔	外食需要は底堅く、既往の値上げにより売上高は前年比増

表の見方

業界天気				売上高	
	好調		低調	➔	非常に増加(+10%以上)
	順調		不調	➡	増加(+3~+9%)
	普通			➡	横ばい(+2~△2%)
				➡	減少(△3~△9%)
				➡	非常に減少(△10%以上)

静岡県内主要産業四半期見通し調査「現況」推移

年次	2023年				2024年				2025年				
四半期	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	
対象月 (○は調査月)	1~③	4~⑥	7~⑨	10~⑫	1~③	4~⑥	7~⑨	10~⑫	1~③	4~⑥	7~⑨	10~⑫ (今回調査)	
全業種の平均階級値	2.93	3.00	3.13	3.07	3.07	3.07	3.20	3.20	3.33	3.20	3.20	3.00	
好調:5													
順調:4													
普通:3	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
低調:2													
不調:1													
(業種数)	好調 ☀️	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1
	順調 ☁️	3	4	3	2	2	2	3	3	3	2	2	0
	普通 ☁️	8	7	11	12	12	12	12	12	11	11	11	12
	低調 ☁️	4	4	1	1	1	1	0	0	0	1	1	2
	不調 ☁️	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

注1) 「業界景気の現況」および「業界景気の見通し」は、対象企業経営者が業界景気動向をどうみているかを調査したもの。調査は、毎年3、6、9、12月に実施。「業界景気の現況」とは、調査時点(12月調査であれば10~12月期)における業況、「業界景気の見通し」とは、調査時点における翌期(12月調査であれば1~3月期)の見通しを示す。

注2) 調査方法は、アンケート調査とヒアリング調査による。アンケート調査の概要は以下の通り。
 調査時点…2025年12月上旬
 回答企業…県内主要15業種(153社)

注3) 平均階級値は、好調：5、順調：4、普通：3、低調：2、不調：1とする、15業種の平均値。

各業種および表の見方

製紙

輸入トイレ紙の流入加速によって、生産下振れリスクが高まる

【現況】
☁️

↓

【見通し】
☁️

【1-3月期売上高】
前年同期比 10-12月期比

→ ←

現況

【10-12月期】家庭紙の生産量は前年を下回った。システム障害に起因し、紙などの生産が前年を下回った。物価高の影響で、食品向けが引き続き低調であった。

見通し

【1-3月期】家庭紙の生産量は前年並みとなる見込み。法人向け通紙の出荷停止の影響が和らぐとみられる。ただし、輸入紙の流入加速により、下振れリスクが高まる見込み。消費者の節約志向の根深さから、食品向けの弱さが続くこととみられる。

国内紙・板紙生産量
(前年比)

注: 2025年11月は速報値。(四半期、月)
資料: 経済産業省

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
90%以上	均衡	適正	横ばい	上昇	0.1~1.5ヵ月

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
90%以上	非常に需要超過	非常に過少	非常に上昇	非常に上昇	ヵ月
89~80%	需要超過	過少	上昇	上昇	
79~70%	均衡	適正	横ばい	横ばい	
69~60%	供給超過	過多	下降	下降	
59%以下	非常に供給超過	非常に過多	非常に下降	非常に下降	

主要業種景況見通し

製紙 輸入トイレ紙の流入加速によって、生産下振れリスクが高まる

【現況】



↓

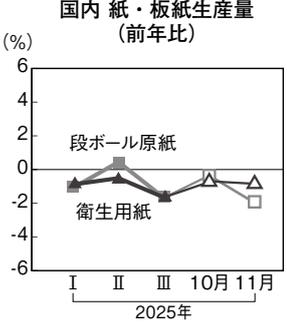
【見通し】



【10-12月期】 家庭紙の生産量は前年を下回った。システム障害に起因した法人向け通販会社の出荷停止がトイレ紙などの生産を押し下げた。板紙の生産量は前年を下回った。物価高による消費者の節約志向の影響で、食品向けが引き続き低調であった。

【1-3月期】 家庭紙の生産量は前年並みとなる見込み。法人向け通販会社の出荷停止の影響が和らぐとみられる。ただし、足元でトイレ紙も輸入品の流入が加速しており、下振れリスクが残る。板紙の生産量は前年並みの低空飛行が続く見込み。消費者の節約志向の根強さから、食品向けの弱さが続くと思われる。

国内紙・板紙生産量 (前年比)



注：2025年11月は速報値。(四半期、月)
資料：経済産業省

前年同期比	10-12月期比	操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
→	→	90%以上	均衡	適正	横ばい	上昇	0.1~1.5ヵ月

食品・飲料/製茶 家庭用ツナ缶が堅調で、食料缶メーカーの売上は前年並み

【現況】



↓

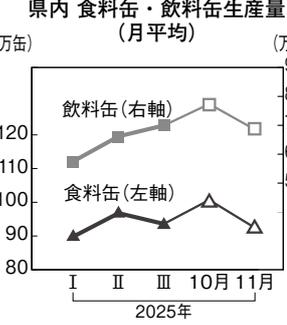
【見通し】



【10-12月期】 **食品・飲料**：県内食料缶メーカーの売上高は、主力のツナ缶需要が堅調で、前年並みで推移した。飲料缶類の生産量は、パッカーの生産設備更新による増産もあり、前年を上回った模様。**製茶**：茶商の売上高は前年を下回り、秋冬番茶の高騰で収益は悪化した。

【1-3月期】 **食品・飲料**：県内食料缶メーカーの売上高は、ツナ缶は家庭用を中心に需要が底堅く、前年並みで推移する見通し。飲料缶類の生産量は、茶系飲料を中心に堅調な受注が見込まれ、前年を上回るとみられる。**製茶**：茶商の売上高は、前年を下回る見通し。原料の荒茶価格の高騰で、収益の悪化が懸念される。

県内食料缶・飲料缶生産量 (月平均)



資料：(一社)静岡缶詰協会

前年同期比	10-12月期比	操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
→	→	90%以上	均衡	適正	上昇	横ばい	0.1~1.0ヵ月

工作機械 内外需で明暗が分かれ、中小メーカーは苦戦が続く

【現況】



↓

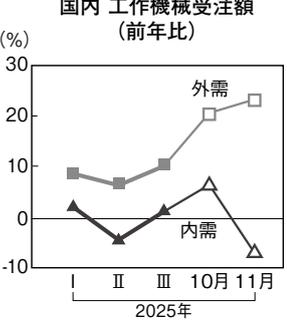
【見通し】



【10-12月期】 全国の受注額は、前年を+1~2割上回った模様。メインの外需は、中国がAI・半導体関連を中心に高水準で推移、米国も利下げ効果等で堅調な受注環境が続いた。一方、内需は一進一退で推移し、外需比率の低い県内中小メーカーは低空飛行が続いた。

【1-3月期】 全国の受注額は、前年をやや上回って推移する見通し。外需は、米中で過熱するデータセンター投資等に伴う大型受注が見込まれ、引き続き受注総額をけん引するとみられる。内需は、主力の自動車関連需要の好転が見込めず、県内中小メーカーにおける受注低迷の長期化が懸念される。

国内工作機械受注額 (前年比)



資料：(一社)日本工作機械工業会

前年同期比	10-12月期比	操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
→	→	79~70%	均衡	適正	上昇	横ばい	1.0~10.0ヵ月

民生用電器部品

底堅い需要が見込まれるものの、好調だった前年には届かず

【現況】



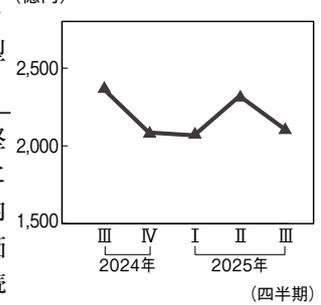
【見通し】



【10-12月期】県内の家庭用エアコンの出荷台数は、東京都の省エネ家電の購入支援策などで買替え需要が押し上げられ、前年をやや上回った。一方、冷蔵庫は、401リットル以上の大型タイプが振るわなかったものの、中小型が伸び、低調だった前年をわずかながら上回った。

【1-3月期】県内の家庭用エアコンの出荷台数は、底堅い買替え需要が見込まれるものの、高水準だった前年には届かないとみられる。業務用エアコンは、旺盛な国内需要に支えられ、前年をやや上回りそう。冷蔵庫は、価格高騰に伴う需要の冷込みが懸念され、低調な推移が続く見通し。

国内 家庭用電気機器出荷額 (月平均)



資料：経済産業省

【1-3月期売上高】

前年同期比 10-12月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
89~80%	均衡	適正	上昇	横ばい	1.0~3.0ヵ月

自動車部品

需要回復鈍く、生産調整が部品受注を下押し

【現況】



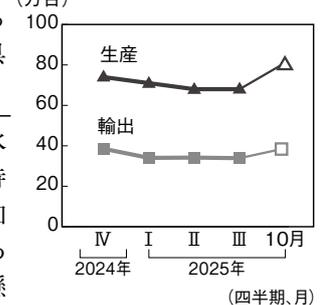
【見通し】



【10-12月期】全国の自動車生産台数は、前年比△5%で推移した模様。トランプ関税などの先行き不透明感に加え、新型車投入の遅れや、一部ではネクスペリアによる半導体出荷停止を受けた生産調整の影響もみられた。県内の部品受注は全体として前年をやや下回った。

【1-3月期】全国の自動車生産台数は、前年比微減の水準で推移する見通し。新型車投入による需要増加が期待されるものの、販売動向は力強さを欠くとみられる。加えて、半導体出荷停止を受けた生産調整の影響などもあり、県内部品メーカーの受注量も前年を下回ることが懸念される。

国内 自動車生産・輸出台数 (月平均)



資料：(一社)日本自動車工業会

【1-3月期売上高】

前年同期比 10-12月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
89~80%	均衡	適正	横ばい	上昇	0.5~3.0ヵ月

二輪車部品

主力の欧州市場で競争が激化し、受注は弱含む見通し

【現況】



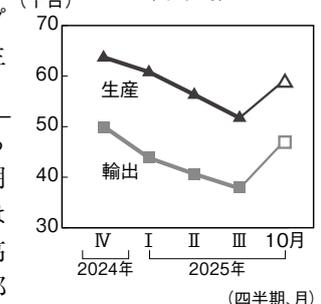
【見通し】



【10-12月期】全国の完成車生産台数は前年を下回った。排ガス規制により50cc原付一種の生産が終了し、国内向けの生産が減少した一方、欧州を中心にスポーツタイプの需要が堅調だった。このため、海外向けの大型車が主力の県内部品メーカーの受注は前年を上回った。

【1-3月期】全国の完成車生産台数は前年をやや下回る見通し。欧州向けは春先の販売を控えて底堅い需要が期待されるが、海外メーカーとの競争激化に伴い、生産は勢いを欠くと予想される。加えて、北米向けは、物価高に伴い中間層の購入に陰りがみられる模様。このため部品メーカーの受注量も前年をやや下回る見通し。

国内 二輪車生産・輸出台数 (月平均)



資料：(一社)日本自動車工業会

【1-3月期売上高】

前年同期比 10-12月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
89~80%	均衡	適正	横ばい	横ばい	0.1~1.0ヵ月

建設

インフラ改修は堅調な一方、民間需要は前年を下回る

【現況】

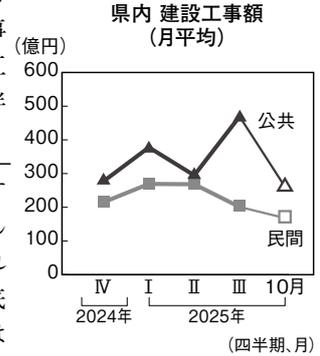


【見通し】



【10-12月期】県内の公共工事契約高は、体育館新設など大型案件があった一方、インフラや公共施設の整備工事の発注が伸び悩み、前年をやや下回った模様。民間の工事費予定額は、主力の製造業を中心に諸コスト上昇に伴う設備投資の先送りがみられ、前年を下回った。

【1-3月期】県内の公共工事契約高は前年並みで推移する見通し。県や一部の市町が25年度補正予算に組み込んだインフラ整備等に関する建設工事費の執行が期待される。民間の工事費予定額は、老朽化設備の更新需要は底堅い一方で、建築費の高騰などから大型案件の積上げは見込みがたく、前年をやや下回る見通し。



資料：国土交通省、建通新聞社

【1-3月期売上高】

前年同期比 10-12月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	仕入単価	販売単価	受注残
90%以上	需要超過	—	上昇	上昇	1.0~18.0ヵ月

住宅

前年の反動減に加え、住宅価格・金利の上昇が響き低調に推移

【現況】

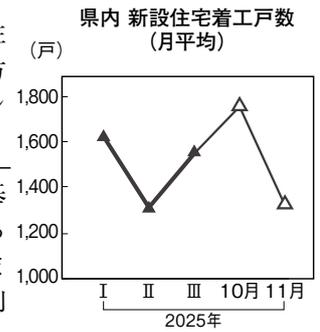


【見通し】



【10-12月期】県内の新設住宅着工戸数は、前年をやや下回った模様。利用関係別にみると、浜松市などで賃貸住宅の着工があった貸家は前年並みの水準を維持した一方で、住宅価格上昇で需要が低迷する持家や、新築マンションの着工が伸び悩んだ分譲は前年を下回った。

【1-3月期】県内の新設住宅着工戸数は、前年の建築基準法改正に伴う駆け込み着工の反動減から、前年を下回る見通し。住宅設備の価格上昇を背景に販売価格の高止まりが続くほか、日銀の金融政策を受けて住宅ローン金利の上昇圧力も強まっており、住宅購入を検討する層で、慎重さを増す動きもみられる。



資料：国土交通省

【1-3月期売上高】

前年同期比 10-12月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	仕入単価	販売単価	受注残
90%以上	均衡	適正	上昇	上昇	1.0~12.0ヵ月

大型小売店

総販売額は前年をやや上回るものの、収益環境は悪化

【現況】

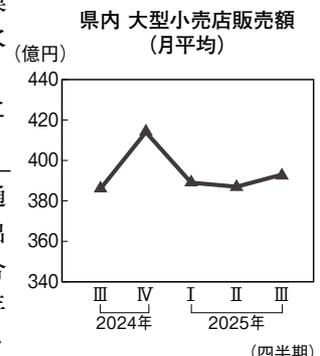


【見通し】



【10-12月期】県内の総販売額は前年をやや上回った模様。百貨店は、物価高でボーナス商戦が盛り上がりを欠き、低調だった前年並みで推移した。総合スーパーは、販売数量は落ち込んだが、主力の飲食料品の単価上昇により押し上げられ、販売額は前年をやや上回った。

【1-3月期】県内の総販売額は前年をやや上回る見通し。百貨店の販売額は、生活必需品の値上げに伴う支出抑制が続くとみられ、前年並みにとどまる見通し。総合スーパーは、主力の飲食料品の単価上昇を受けて、前年をやや上回りそう。ただし、人件費など店舗運営コストが上昇する中、収益環境は悪化する公算が大きい。



資料：経済産業省

【1-3月期売上高】

前年同期比 10-12月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	仕入単価	販売単価	受注残
—	均衡	—	上昇	上昇	—

自動車販売

買替え需要が一巡、新車投入も少なく前年をやや下回る

【現況】

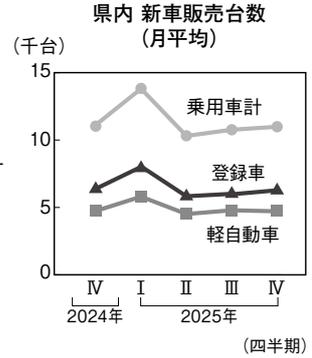


【見通し】



【10-12月期】 県内の新車販売台数は前年を△1.2%下回った。半導体部品の調達難により一部メーカーの工場が停止したことや、人気上位車種も市場投入から時間が経過して販売が落ち着いたこと、新車価格の上昇で中古車に人気がシフトしたことも影響した。

【1-3月期】 県内の新車販売台数は、前年をやや下回る見通し。昨秋から買替え需要が一巡した上に、人気車種の新規投入予定も限られるなど、比較的高水準だった前年には届かない見込み。電気自動車向けの補助金は増額されたが、メーカーの供給体制に大きな変化がない模様で、販売台数の上積みは限定的とみられる。



資料：(一社)日本自動車販売協会連合会静岡県支部
(一社)全国軽自動車協会連合会静岡事務所

【1-3月期売上高】

前年同期比 10-12月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	仕入単価	販売単価	受注残
—	均衡	過少	上昇	上昇	1.0~12.0ヵ月

物流

輸送用機器や紙・パルプが伸び悩み、輸送量全体は前年並み

【現況】

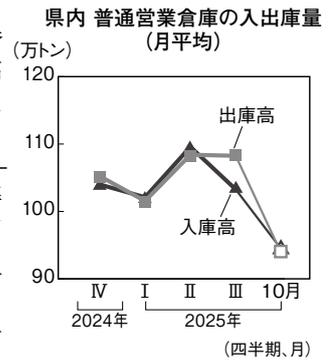


【見通し】



【10-12月期】 県内のトラック輸送量は、前年並みとなった模様。食料品や飲料は堅調に推移したが、輸送用機器や紙・パルプが前年を割り込んだ。普通倉庫の入出庫高は、前年を△5%程度下回って推移。電気機械は伸ばしたが、一般機械やゴム製品などの荷動きが鈍化した。

【1-3月期】 県内のトラック輸送量は、前年並みの水準で推移すると予想される。飲食料品は堅調だが、輸送用機器や紙・パルプなどが伸び悩み見通し。普通倉庫の入出庫高は、電気機械の荷動きが鈍化するとみられるが、食料品や飲料で安定した荷動きが見込まれ、全体では前年並みの水準を確保できる模様。



資料：静岡県倉庫協会

【1-3月期売上高】

前年同期比 10-12月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	燃料価格	サービス単価	受注残
89~80%	均衡	—	横ばい	上昇	—

情報サービス

システム更改需要を中心に、好調な受注環境が継続

【現況】

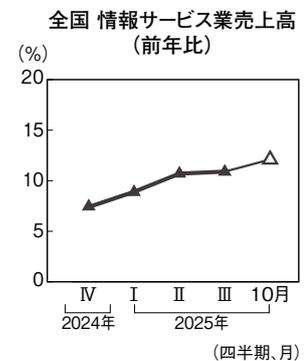


【見通し】



【10-12月期】 全国および県内の売上高は、前年をやや上回って推移し、主力の受託開発ソフトウェアを中心に好調な受注環境が続いた。県内でも、民間企業・自治体のIT投資や、Microsoft Windows10のサポート終了等に伴うシステム更改需要を取り込み、受注が増加した。

【1-3月期】 全国および県内の売上高は、前年をやや上回って推移する見通し。県内でも、受注案件の納期が集中する年度末に向けて繁忙が予想されるほか、新年度も積極的なIT投資が見込まれ、売上高の拡大基調が続く見込み。ただし、エンジニアの流出を防ぐための賃上げで、収益には下押し圧力がかかりそう。



資料：総務省「サービス産業動態統計調査」

【1-3月期売上高】

前年同期比 10-12月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	サービス価格	受注残
90%以上	均衡	—	—	上昇	1.0~3.0ヵ月

人材派遣

観光は弱含むも、主力の事務関連を中心に底堅く推移

【現況】



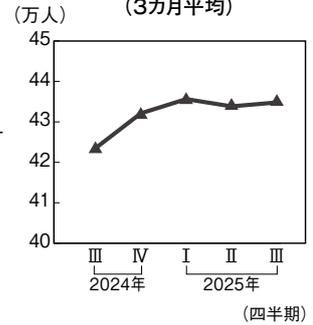
【見通し】



【10-12月期】県内の派遣社員の実稼働者総数は、前年並みとなった模様。ボリュームゾーンである一般事務職が堅調で、小売・サービス業向けの販売職も安定的に推移した。製造業の現業職は、米国関税政策の不透明感から慎重なスタンスが維持され、前年を下回って推移した。

【1-3月期】県内の派遣社員の実稼働者総数は、前年並みで推移する見通し。メインの一般事務職は、引き続き底堅く推移しそう。観光関連の販売職は日中対立の影響が懸念されるものの、人手不足感が強く落込みは限定的とみられる。製造業は、自動車部品を中心に採用に慎重な姿勢が続きそうで、前年をやや下回る見通し。

全国 派遣社員の実稼働者数 (3カ月平均)



資料：(一社)日本人材派遣協会

【1-3月期売上高】

前年同期比 10-12月期比



稼働率	需給バランス	製品在庫水準	派遣原価	派遣単価	受注残
89~80%	均衡	—	上昇	上昇	—

観光・レジャー

日本人観光客の鈍化に加え、中国人観光客の伸び悩みも懸念

【現況】



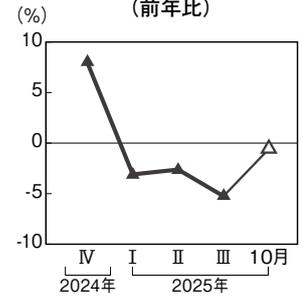
【見通し】



【10-12月期】県内主要旅館の総売上高は、前年をやや上回った模様。万博終了後も日本人旅行者の戻りが鈍いほか、好調が続くインバウンドも中国人旅行者が弱含む、宿泊者数は前年を下回る状況が続いている。一方、コスト高を転嫁し、宿泊単価は前年を上回った。

【1-3月期】県内主要旅館の総売上高は、前年並みにとどまる見通し。物価高で日本人の旅行マインドが上向かないことに加え、インバウンドも春節における中国人旅行者の下振れが懸念される。単価も、コスト高が続き上昇基調こそ維持するものの、転嫁に対する慎重姿勢が強まっており、改善余地は限定的とみられる。

県内 宿泊者数 (前年比)



資料：観光庁

【1-3月期売上高】

前年同期比 10-12月期比



稼働率	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	サービス単価	受注残
79~70%	均衡	—	上昇	上昇	—

外食

外食需要は底堅く、既往の値上げにより売上高は前年比増

【現況】



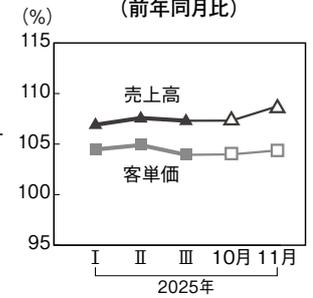
【見通し】



【10-12月期】全国および県内の主要外食店の売上高は、前年を上回った。既往の値上げによる客単価の上昇が要因。根強い節約志向を受け、お得なキャンペーンを打ち出した低価格業態の飲食店や、年末にかけて忘年会などの需要を取り込んだ居酒屋を中心に堅調に推移した。

【1-3月期】全国および県内の主要外食店の売上高は、既往の値上げによる客単価上昇を受けて前年を上回る見通し。正月休みに加え3月の春休み、歓送迎会など外食需要は底堅いとみられ、総じて客足は前年並みで推移する見込み。一方、米価の高止まりや人件費上昇によるコスト負担は重く、収益確保に苦心する状況が続く模様。

全国 外食売上高・客単価 (前年同月比)



資料：(一社)日本フードサービス協会

【1-3月期売上高】

前年同期比 10-12月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	販売単価	受注残
—	均衡	—	上昇	上昇	—

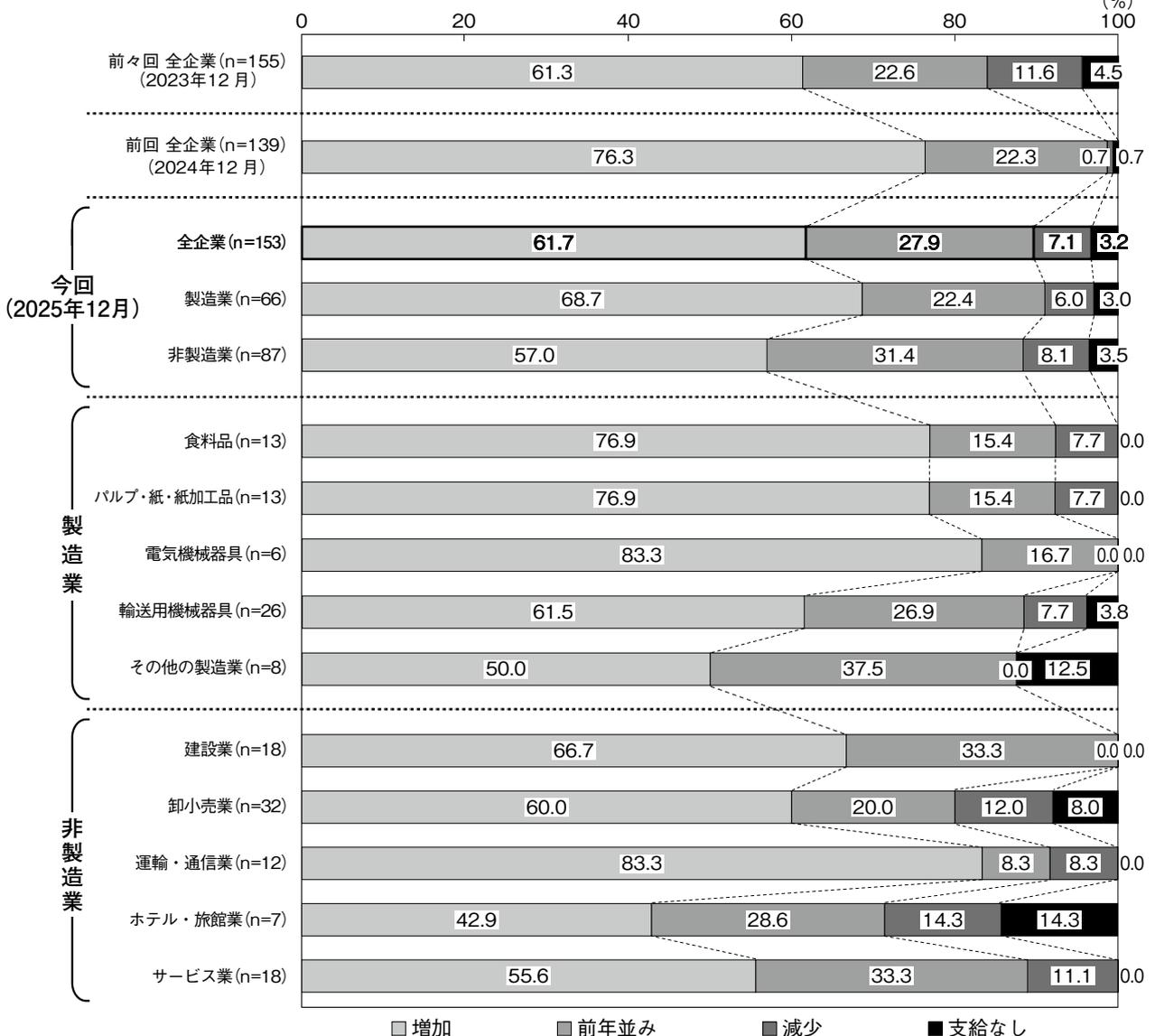
特別調査 冬のボーナス支給状況

冬のボーナス支給は“増加”回答が6割

県内企業に、今冬のボーナス支給について質問したところ、前年より「増加」させると回答した企業は61.7%で、前年調査（2024年12月、76.3%）からは減少したものの、6割を超えた（図表）。「前年並み」（27.9%）と合わせて9割近い企業が、前年水準以上のボーナスを支給している。

業種別にみると、製造業では、「増加」との企業が“電気機械器具”で8割、“食料品”と“パルプ・紙・紙加工品”も7割を超えた一方、主力の“輸送用機械器具”は6割にとどまった。非製造業では、人手不足が深刻な“運輸・通信業”で8割を超えたほか、“建設業”では全企業が前年水準以上の支給となっている。総じて、物価高に伴う賃上げ要求への対応や人材定着などを目的に、ボーナス支給額を増やす動きが続いている。

図表 今冬のボーナス支給状況（正社員1人当たりの支給額、業種別）



調査要領：調査時点2025年12月、調査対象企業580社、回答社数153社、有効回答率26.4%